社会医療法人
同仁会
Dojinkai
Social Medical Corporation

私たちの理念「一視同仁」

同仁会報みみはら

2021年３月１日発行
第101号

民医連

発行　社会医療法人同仁会　同仁会報編集委員会　〒590-0821　堺市堺区大仙西町６丁184-２
TEL 072(244)7260　FAX 072(247)0165　URL http://www.mimihara.or.jp（同仁会HP）

ますます求められている在宅介護ヘルパー

介護の職場で あなたも一緒に働きませんか

高齢化社会を迎え、医療や介護の担い手が必要となり、その中でより求められているのが介護ヘルパーです。ここ最近では新型コロナウイルス感染症の影響もあり、在宅で過ごされる方も増え、ますます需要が見込まれます。しかし人材確保が難しく、国や自治体に処遇改善の要求も行っています。これからも介護ウェーブ活動などを行い、要求していきます。

「耳原ヘルパーステーションともうず老松」でサービス提供責任者・介護福祉士の今年４年目になる野見山静香さんにお聞きしました。

●子育てと仕事の両立は？

現在３人の子育てしていますが、なんでも相談できる職場です。学校からの急な呼び出しなども調整してもらい、子育てとの両立をしながら、正社員として勤務しています。

●「みみはら」で、働いてよかったことは？

教育面では独り立ちするまでの研修や、その後のフォローも充実していることです。また初任者研修を受けてからヘルパーになるにも、手厚いフォローがありますよ。

●福祉職に入ったきっかけは？

幼児教育の短大でしたが、祖父の介護するきっかけで卒業後、老人保健施設で介護職員になりました。その後、初任者研修や介護福祉士の資格も取得しました。

介護ヘルパーは、病院から退院した方や短時間デイケア、リハビリ等から家に戻ってこられた場合に、その方の自立支援を目指しながら介護や家事サービスを提供します。

野見山静香さん

●毎日働けない方でもヘルパーの仕事はできますか？

アルバイト勤務と登録型があり、登録ヘルパーであれば、時間に融通が利き、空いている時間で買い物も。ご自分の都合のいい時間でヘルパー登録できます。（現在、60～70歳代のヘルパーも活躍しています）

●やりがいは？

介護計画書などを書き上げると達成感がありますが、やはり利用者様からの「ありがとう」の言葉ですね。独居の方も多いので、訪問を楽しみにしてくださっている利用者様も多いです。少ない人材で対応しているので、利用者様のご要望を受けられないこともありますが、仲間を増やしてサービスを必要としている重篤利用者様の対応もできるようにしたいです。

●メッセージをどうぞ。

私たちはゴーグル、マスク、エプロン、手袋、消毒をしながら、利用者様にもマスクをお願いし、新型コロナウイルス感染症にも対応しています。

これから介護ヘルパーを目指す方にも、安心してもらえるバックアップ体制がありますし、たくさん働かれたい方も、フレキシブルに短時間でも、ご自身のライフスタイルに合わせて働けますので、ぜひ仲間に加わってください。ご紹介もお待ちしています。

オンラインで公開シンポジウム開催！

『死から目を背けることで、私たちが失うもの』

人生会議（ＡＣＰ＝アドバンス・ケア・プラニング）をご存知ですか？

地域の皆様と専門職が自身の問題として、自分はどう生きたいか、何を大切にしているのかについて考える講座です。

講師：明治大学経営学部
公共経営学科専任
早川佐知子先生

シンポジスト
▶耳原総合病院若手医師　横内　聡さん
▶健康友の会みみはら会長　江戸道子さん

日程：３月11日(木)　18時～19時30分
どなたでもご参加ＯＫ(無料)
Zoomで配信します
事前にＱＲコードより ➡
参加を申し込んでください

〈お問い合わせ〉
耳原総合病院 品質管理部

募集

登録ヘルパー
介護スタッフ
訪問・施設介護スタッフ

社会医療法人　同仁会　介護事業部
〒590-0808
堺市堺区旭丘中町２丁１-７
TEL 072-244-7140
FAX 072-247-0290

シリーズ
みみはらの人 ⑬

みみはら十人十色

苦しい時を乗り越え、地域にあってよかったと思っていただけるように

今回の「みみはらの人」は、耳原総合病院リハビリテーション室技師長の中村祐介さんです。理学療法士として1997年、同仁会に就職しました。

――この職種を選んだきっかけは？

高校生の時に膝を怪我して、２ヵ月間入院しました。その時に担当になった理学療法士が、いつも笑顔で「大丈夫！」「大丈夫！」と沈んだ気持ちをいつも持ち上げてくれて、元気を与えてもらいました。自分もその時に実感したように、「身体だけでなく、心も明るく元気にする理学療法士になりたい」と思い、この道に進みました。

――どんな仕事をしていますか？

理学療法士は、基本的な動作（起きる、座る、立つ、歩く）を主に練習します。様々な病気が原因で動きにくくなった手足を動かしやすくして、再び日常生活ができるように練習します。

今は総合病院リハビリスタッフ66人、介護分野リハビリスタッフ22人、あわせて88人を職責と協力し、まとめています。

――「リハビリは感染リスクが高い」と聞いています。コロナ禍で仕事の変化や苦労していることは？

確かにリハビリは時間も接触も多いため、感染リスクは高くなります。しかし当院のリハビリは、手指消毒や感染防具の訓練、リハビリ室の入院・外来エリア分けなど、感染対策を徹底しているため、安心してリハビリを受けていただけます。職場での苦労は、みんなで交流ができないことです。特に今年の新人は、入職時からコロナ禍で歓迎会や交流会が一度もできていません。昨年より感染防止のため、同居家族以外との会食を禁止していることもあり、スタッフ同士も交流ができない状態です。先輩、後輩でワイワイしていたころが懐かしくも感じます。

――この仕事をしていて「良かったと感じること」や「やりがい」は？

小さな改善であっても、できたことを患者さんと共感するときにやりがいを感じます。

――ストレス発散方法は？

20年ほど前から職員レクレーションの一環として、海の釣り堀企画を年２回開催しています。魚種は、鯛やカンパチ、シマアジなどです。企画前日は、準備やあれこれ考えすぎて毎回寝つけません。釣れても、釣れなくても、ストレスが発散できます。

――自分にとって「みみはら」とは？

「リハビリの道に進もう」と決めた時は、お金のあるなし関係なく、どんな人にもリハビリを提供しようと思っていました。「みみはら」は、それが実行できるところです。

――友の会や患者・利用者さんへの期待や伝えたい思いをどうぞ。

今回のコロナ禍で、人と人との交流がいかに大切であるか、気付かされました。コロナもいつまでも続きません。この閉塞感のある苦しい時を乗り越え、地域にあってよかったと思っていただける「みみはらグループ」を皆さんと一緒に築き上げていきたいと思います。今後ともみみはらグループ、みみはらリハビリテーションをよろしくお願いいたします。

中村　祐介さん
耳原総合病院　リハビリテーション室技師長
福岡県北九州市出身。大切にしていることは、「ありがとう」という感謝の心と、笑顔で「あいさつ」。好きな言葉は、「お互いさま」と思う気持ちです。その心で職場長としてスタッフをまとめています。